

令和4年度 阿波市総合教育会議 会議録

(1) 会議 開催日

令和5年1月23日（月） 阿波市役所 3階 大会議室
午後1時25分から午後2時40分まで

(2) 出席委員の氏名

市 長	藤井 正助
教 育 長（委員）	高田 稔
教育長職務代理者	庄野 憲二
委 員	重清 由充
委 員	大戸井 美生
委 員	森本 匡史
委 員	細川 敬雄

(3) 委員を除く、議場に出席した人の氏名

阿波市議会 議長	笠井 一司
阿波市議会副議長	坂東 重夫
阿波市議会 文教厚生常任委員会	
委員長	藤本 功男
副市長	町田 寿人
副市長	木下 修一
教育部長	森友 邦明
教育部次長	佐藤 正彦
教育部次長	酒巻 達也
学校教育課長	前田 耕志
社会教育課長	板東 毅
学校給食センター所長	矢部 泰世
教育研究所研究員	兼松 正志
企画総務部長	坂東 孝一
企画総務部次長	森 克彦
企画総務課課長補佐	石川 学

(4) 傍聴人 1名

森次長	それでは、皆さんお揃いですので、ただ今から『令和４年度 阿波市総合教育会議』を始めさせていただきます。本日司会進行をさせていただきます企画総務課の森と申します。よろしくお願い申し上げます。 本日の出席者につきましては、別紙２の席次表のとおりでございますので、紹介に代えさせていただきます。 それでは始めに、藤井市長よりごあいさつを申しあげます。
藤井市長	開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。 本日は、令和４年度「阿波市総合教育会議」を開催しましたところ、市議会より、笠井一司議長さん、また坂東副議長さん、そして藤本文教厚生常任委員会委員長さんには、公私共に大変お忙しい中、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。 また、平素は教育委員の皆様をはじめ、お集まりの皆さま方におかれましては、本市行政の推進、とりわけ、教育行政の推進に、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、心から厚くお礼を申し上げます。 さて、本市では、ご承知のとおり「安全・安心のまちづくり」、「活力あふれるまちづくり」、「子育て応援のまちづくり」を施策の中心に据えまして、「持続可能な阿波市」の構築に全力で取り組んでいるところでございます。また、教育分野におきましては、子どもたちや市民の皆様安全・安心を確保し、豊かな学びを育むため、ハード・ソフト両面から教育環境の充実・強化に取り組んでいるところでございます。 加えて、２０２０年からの「新型コロナウイルス感染症の拡大」などにより、社会経済情勢が大きく変化している状況を踏まえ、令和３年度から、「ＧＩＧＡスクール構想」を実現するため、教育現場で、児童・生徒一人一台のタブレット型パソコン端末配備をはじめ、ＩＣＴ機器の充実、有効活用に取り組んでおりまして、子どもたち一人ひとりの「学び」や、創造性を「育む」教育を進めているところでございます。 このように教育現場が新たな局面を迎え、教育環境の更なる充実・強化が求められている中、「阿波市総合教育会議」は、市と教育委員の皆様方が、互いの役割や権限を尊重し合いながら、意見交換を重ね、将来像や課題を共有し、「子どもは阿波市の将来を担う大切な宝」との共通認識を深めることのできる、良い機会と考えているところでございます。 本日は、「令和４年度の学校訪問を通しまして、阿波市教育活動の現状」についてご協議頂くこととしておりますが、委員の皆様方におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のないご意見・ご提言を賜ります

森次長	よう、よろしくお願い申し上げます、開会にあたっての挨拶とさせて頂きます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。
高田教育長	続きまして、高田教育長よりごあいさつを申し上げます。 一言ごあいさつを申し上げます。 本日は、笠井一司議長様、坂東副議長様、藤本文教厚生常任委員長様のご臨席のもと、この阿波市総合教育会議が開催されますことを大変うれしく思っています。 最初に、この場をお借りしまして、今年度の教育環境整備の概要についてご報告させていただきます。 まず、学校教育関係では、吉野中学校夜間照明、防球ネット改修、柿原小学校普通教室の床改修、久勝小学校の屋上ほか塗装改修工事を行い、そして、すべての学校の特別教室に、空調機を設置する工事が完了いたしました。 また、社会教育関係では、吉野笠井図書館の屋根、外壁、トイレの洋式化の工事、阿波市民球場のスコアード点板修繕工事を行いました。 G I G Aスクール関連では、すべての学校のサーバの更新と、そのことに伴う教師用のパソコンの設定変更を行い、さらに快適な I C T 機器の活用ができる教育環境となりました。 市長さん並びに議会の皆様方におかれましては、常に、子どもたちの教育環境整備の充実に、ご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。 さて、本市の教育行政は、市の最上位計画である第2次阿波市総合計画、また教育大綱、教育振興計画に基づき進められております。 そして、この総合教育会議は、市長と教育委員会が、十分な意思疎通を図り、地域の課題やあるべき姿を共有して、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために行う会議となっております。 「子育てするなら阿波市」「子育て応援のまちづくり」のさらなる実現に向け、取組への成果や課題に評価を加えながら、今後の教育行政施策を進めてまいりたいと考えています。 本日も、どうかよろしくお願い致します。
森次長	それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります藤井市長にお願いしたいと思います。

藤井市長	市長、よろしくお願いいたします。 それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。 まず、議題１、「令和４年度の学校訪問を通して、阿波市教育活動の現状について」 ・ＩＣＴ機器の活用 ・新型コロナウイルス感染症対策 について、事務局からご説明をお願いいたします。
佐藤次長	①只今より阿波市の教育活動の現状、ＧＩＧＡスクールとコロナ対策について、概略をお伝えします。前半のＧＩＧＡスクールにつきましては、兼松研究員が、後半のコロナ対策につきましては、教育次長佐藤が報告させていただきます。 それでは、ＧＩＧＡスクールについて報告いたします。
兼松研究員	②ＧＩＧＡスクール構想の阿波市の現状について教育研究所兼松から説明させていただきます。 まずはＩＣＴ機器の導入状況についてです。教員が校務に使うパソコンが１人１台のWindows10になりました。そして、児童生徒の使うパソコンが、１人１台のタブレットとなったことは学校現場として、とても大きな改革となりました。常設の電子黒板機能付きプロジェクターが、令和３年度に小学校４・５・６年生教室、令和４年度に中学校１・２・３年生の教室に導入されました。その他に、通常のプロジェクター、実物投影機、無線アクセスポイント、タブレットの電源保管庫が各校の規模に応じて導入されています。独自にｉｐａｄやデジタルカメラ、ビデオ、大型テレビなどを導入している学校もあります。 ③次に導入アプリについてです。アカウントを使ってパソコンへログインすることで、いろいろなアプリが使えます。ワードやエクセル、パワーポイントに加え、オンライン会議ができるものなどが入っています。また、インターネット上でのアンケート機能や動画作成、クラウド上にデータ保存といったこともできます。詳しくは、取組の中で説明させていただきます。 ④電子黒板機能付きプロジェクターについて動画を見ていただきます。（動画再生） 付属のペンでパソコンの操作や画面上への書き込みができるため、多

	くの教員が活用しています。 ⑤無線でパソコン画面を約70インチサイズに映せます。教室にあるテレビよりも大きな画面で見せることができます。 ⑥テレビや教材を映すカメラとコードでつないで使用することもできます。 ⑦プロジェクター、テレビ、ホワイトボード、黒板を組み合わせ、効果的に利用している事例もあります。 ⑧続いてメタモジというアプリについてです。作成した授業データをノートやプリントのように使うことができます。ワード等で作ったものを読み込んだり、紙のプリントをカメラ機能で取り込んだりすることのできるため、これまでに作ったものを活用することができます。教員の画面では子どもが操作している様子がわかるので、様々な授業で活用されています。 ⑨これは実際の使用中の様子です。 (動画再生) 子どもたちは、画面上に直接書き込んだり、キーボードで入力したりして授業に取り組みます。 ⑩教員は全員の画面を見たり、一人の子どもの画面を見たりできます。 (動画再生) 画面内の表示で、わかった場合は青、わからない場合は赤というように教員に自分の考えを伝えることができます。教員は、子どもの近くに行きサポートするだけでなく、その場所から子どもの画面へサポートができます。このことから、自宅や他の教室から学習に参加している場合でも、画面を通してサポートができます。この動画では個人の学習ですが、グループや学級で1つのデータに同時に書き込むような活動もできます。 これまでは誰かが模造紙等で作業していると自分の作業を待つ子が出ていましたが、同時に書き込みができることから学習に主体的に取り組むことができます。 ⑪次にプログラミングについてです。プログラミングのアプリとして、小学校ではビスケットとスクラッチ、中学校ではスクラッチとブラケットを利用して、各教科の学習内容の中で活用されています。 国語の物語の場面紹介アニメの作成、算数や数学の計算システム作り、理科や技術で熱や光を感知するオートセンサーの仕組みを考えると、いった授業での活用がされています。 ⑫次にタブレットの持ち帰りについてです。基本的には教員の指示で持
--	---

	ち帰っています。日常の宿題や長期休業の課題の一つとしてインターネット上にある学習ドリル等を活用しています。臨時休校となった時やアップデートをする際に持ち帰ることもあります。 ⑬最近注目されているのが、ハイブリット授業で教室と別の場所で同時に授業を行う形態です。教室での様子をオンライン会議ができるアプリを使って配信します。黒板をカメラで映して見せたり、教室にいるのと同じように課題に取り組んだりできます。機器の準備や使用者の技術、操作人員が必要になることもあります。将来的にはどの学校でも活用できるように研修を進めています。 ⑭不登校児童生徒への関わりとしてタブレットを活用している学校もあります。これは、学習発表会の様子を家庭でも見られるようにして、学校行事への参加を促した事例です。事前に保護者と学校が効果的な方法を話し合い、個別に対応しています。 学校によっては、授業時刻につないでハイブリット授業をおこなったり、放課後につないで学習サポートや対面指導をしたりするなどの取組があります。 ⑮オンライン会議システムは、他校との交流にも使われています。自己紹介や学校紹介の事例や話し合い活動などの事例があります。本年は、市場中1・2年生がオーストラリアの中学2年生から高校2年生にあたる学年と交流をしました。 (動画再生) 日本語を学んでいる学生との交流で、こちらは英語で、オーストラリアの学生は日本語でお互いのことを伝え合う交流でした。初回の交流では、ICT支援員が機器の準備や接続のサポートを行いました。この交流は平日には学年で、夏休み冬休みには希望者を募り、6回ほど交流をしました。 ⑯健康面への配慮については、文科省の提示する「ご家庭で気をつけていただきたいこと」「タブレットを使うときの5つの約束」を活用しています。使い方のきまりと合わせて学校での指導、家庭への周知を行っています。国や県の資料には「30分から1時間程度使ったら休憩をとる」とありましたが、阿波市では30分を基本として長時間の使用を控えるように努力しています。 ⑰現在、各校に広がりつつある取組が、PTA保護者会への活用です。オンライン会議に参加するパスワードを伝えることで、タブレットだけでなく家庭のパソコンやスマートフォンからも保護者会に参加することができます。今年度は修学旅行説明会を行った学校がありました。保
--	--

	護者からは、職場や家庭から学校に向かう時間がかからず便利であると好評だったと聞いています。 ⑱今年度から、文科省が運営する様々な学習資料やテストを利用できる「MEXCBT（メクビット）」についても追加登録しました。MEXCBTとは、文科省を意味する「MEXT（メクスト）」とパソコン上で試験を行う方法の「CBT（Computer Based Testing）」を合わせた言葉です。これは全国学力・学習状況調査での活用が決定しており、令和5年度から中学校の英語「はなすこと」、令和6年から小学校の質問調査で必須となっています。阿波市としての接続テストは完了しており、2月に動作確認をする予定です。 ⑲オンラインアンケート機能として「Forms」というアプリを使っています。回答内容を選択式にすることで自動集計、グラフ化ができます。朝の健康観察や学校評価アンケートに使えるため、多くの学校での利用が広がっています。 ⑳様々な活用については、校内研修を行って自己研鑽を進めたり、依頼を受けて研究員・ICT支援員等を派遣して講習を行ったりしています。また教員と相談し、児童生徒に対しての授業支援を行うこともあります。できるだけ使う機会を増やし、教員・子どもともに操作に慣れ親しむことが大事であると話しています。こちらから伝えられることは基本的な使い方なので、授業を組み立てる教員が自分の学級の状況に合わせて活用することが求められます。 ㉑各校は、独自に機器やアプリを研究し、よりよい授業づくりを進めています。 これは小学校の事例で、送り仮名の難しい漢字について話し合う授業です。児童が入力した言葉が多い順に中央に大きく表示されます。どのような言葉が選ばれたのかが、視覚的にわかりやすいです。 ㉒これは中学校の英語での事例です。 （動画再生） 教員が作った英語のクイズについて、生徒が各自の端末から回答するという授業です。生徒が積極的に取り組む様子が見られました。 ㉓教室での事例が多くありましたが、体育にiPadを活用している学校もあります。 （動画再生） 録画したビデオが少し遅れて再生される機能を使って、跳び箱を飛んだあとに自分のフォームを確認して、次の跳び方につなげるという活動でした。近くに正しいフォームの写真を掲示してあり、子どもたちは自
--	--

佐藤次長	分の跳び方と見比べていました。このように、導入された機器や各校での研修成果を組み合わせ、GIGAスクール構想の推進に励んでいます。 今後も研修や各校の取組の情報交換をしながら、効率的効果的な取組を研究していきたいと考えています。 以上がGIGAスクール構想の現状についてです。 ④それでは、各校の新型コロナウイルス感染症対策の現状について、現在までのコロナ禍の学校の状況、コロナ対策の設備等、実際の学習や学校行事の様子についてお知らせします。 ⑤コロナ禍の学校の状況ですが、 2020年3月2日、全国の学校で一斉休校となりました。その年を1年目としまして、 2020年度、徳島では、4月 始業式・入学式だけを行い、4月13日から休校となり、家庭訪問も延期となりました。 5月には、5月31日まで休校の延期があり、分散登校を5月22日、23日に行っただけでありました。 6月より、感染症対策を講じての授業、学校行事の再開となりました。 2021年度(2年目)には、タブレットが全員にいきなり、オンラインの活用ができるようになりました。その中で、学校行事の工夫、延期、保護者会等、行ってまいりました。 3学期には、学級閉鎖、学校閉鎖も続いていました。 本年度2022年度(3年目)ですが、1学期より、学級閉鎖を数十回繰り返しながら、感染拡大を抑えながら、各校できる限りの様々な対応をして教育活動を実施しているところであります。 ②⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ 新型コロナウイルス感染症についてのコロナ対策の設備について簡単にお知らせします。 ・サーキュレーター ・空気清浄機 ・CO2メーター ・検温器（各玄関） ・手指消毒、掲示物（各教室の前） ・各階の水道には、自動水栓を付けていただき、子どもたちが蛇口を触らなくても、手洗い等ができるようになりました。 ・子どもたちへの注意喚起として、様々な掲示物を各校で貼っており
------	---

佐藤次長	ます。 ③保護者にお願いして、毎日の健康チェックを行い、学校にウイルスを持ち込まないよう努めています。 ④子どもたちへの注意喚起として、特に、歯磨きの場面で子どもたちが密になり、マスクもしていない状況での感染があるということで、離れて歯磨きをすることや、うがいの際に飛沫を飛ばさないなど注意しながら、歯磨きを行っています。 ③⑤③⑥③⑦③⑧ 参観日も、通常通りの実施は難しいので、感染状況に応じて、分散参観日にして、密を防ぐなど工夫して実施しています。 ・足型等を置きまして、密にならないように工夫しています。 ・換気をしながら、実施しているところです。 ③⑨④④④① 体育館の中に全校児童を入れるのを避け、各教室で始業式や終業式、朝会や児童集会を行っています。 音楽集会の様子です。 各学級で音楽集会を見ているところです。 ④密を避けるために、2つの教室に分散して授業を行ったり、コロナの影響で休まなければならない時には、家庭とオンラインでつないで授業に参加できるようにしています。家からオンラインで学習に参加した児童も、積極的に手を挙げて発表するなど、楽しみながら学んでいる様子も見られました。 また、学級閉鎖した学級では、朝の会をオンラインでつなぎ、多くの友だちの顔を見ることで子どもたちや保護者より「安心した」という声も聞かれました。小学校では、朝の会から帰りの会までずっとつないで学習している学年もあります。理科の教科で教室移動しても、タブレットを持って行き、グループ活動の話し合いにも参加しているようです。学年にもよりますが、発達段階に応じて、教科の内容に応じて、オンラインや学習課題を送り自習するなど工夫して実施してできるようになってきています。 ④③これは、PTA役員会ですが、例年、2月頃に新年度のPTA役員を決定する会を実施しているのですが、コロナによる学級閉鎖が続き、2度延期して、どうしても集まらないという状況でした。そこで、子どもたちのタブレットを活用して、実施することにしました。操作は、子どもたちができるので、ほとんどの家庭が参加できました。そこで、旧PTA役員の保護者に、各地区2、3名のみ学校に来ていただき、各地区
------	---

	に分かれて会議室、教室などで司会進行していただき、オンライン会議を実施しました。子どもたちの協力によって、無事に、各地区の新年度の役員を決めることができました。 ④④入学式や卒業式も様々な工夫をしました。消毒はもちろん、換気の徹底などしています。 ④⑤卒業式の様子です。窓を開けて卒業式を行っています。 ④⑥在校生は、教室で参加し、卒業生の姿をしっかりと見て卒業を祝うことができました。 ④⑦卒業生も、間隔を開けて歌うなど一生懸命に自分たちの卒業式に取り組んでいました。 ④⑧最新の徳島県教育委員会の通知です。 令和4年12月20日改訂版で、学校運営に関する留意点です。大きな変更点は、マスクの着用と昼食時に会話を行うことができるようになった2点です。 感染状況の実態に合わせてということなので、十分できている学校はありませんが、今後メリハリのあるマスクの着用と給食時の会話等が、少しずつ変わっていくものと思われます。 ④⑨⑤⑩各校では、このように感染状況に応じて、様々な工夫を行い、学びを止めない取組を行っています。 以上で、簡単ですが、学校の現状についての報告を終わります。
藤井市長	事務局から「阿波市教育活動の現状について」資料に基づき説明をいただきました。この件につきまして、質問等をいただきたいと思います。 重清委員さん、お願いいたします。
重清委員	教育委員の重清です。質問を2点ほどさせていただきたいと思います。 先ほど説明がございました、資料の19ページにありますが、今後のアンケートですが、学校で年2回もしくは、学期ごとに行っている学校生活に関係する調査なども、従来の紙媒体ではなくなるのでしょうか。 それともう1点は、20ページの研修における先生方の理解度に差があると思いますが、全ての先生方が前向きに取り組まれておられるのでしょうか。基本的な方法は、取得できているのでしょうか。
佐藤次長	それでは、今の質問にお答えします。 1点目のアンケートにつきましては、今後さらに、様々な効果的なタ

	タブレットの活用がすすんでいくと考えられます。実際に、市内の中学校でも県教育委員会のいじめ対策事業を受け、「スクールライフノート」（心の天気図）のソフトを使い、子どもの気持ちの変化を示すオンラインソフトをモデル事業として活用している学校もあります。 その学校の具体的な活用の様子としましては、生徒たちは帰りの学活で、タブレットを活用し、その日の「気持ち」の変化や揺れを天気にとえて打ち込みます。雨、晴れ、曇りなどです。 担任は生徒たちの心の変化を瞬時に自分のタブレットで分かりますので、この子は「曇りなんだな」「雨なんだな」ということが分かりまして、適切なタイミングでの「声かけ」ができるようになっているようです。とても気になる場合には、家庭訪問も行っております。今後このような活用が、どんどん進んでいくと思われます。 もう1点の質問にお答えします。 全ての教員が各学校での研修や、市教育委員会、県教育委員会主催の研修を受けながら少しずつ学んでいます。教員によって理解度には差がありますが、若手の教員を中心にチームを作って、教え合いながら、基本的な活用方法を身につけています。また、市のICT支援員も学校の要望に応じてサポートしています。 今後もさらに、様々なサポートや研修を実施し、児童生徒にとって有効な活用ができるようにしていきます。
重清委員	ありがとうございました。
藤井市長	大戸井委員、お願いいたします。
大戸井委員	ICTの導入について、質問を1点お願いします。 ICTの導入を行っていく中で、今後考えられる課題や問題点などがありましたら、教えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
藤井市長	大戸井委員から質問がありましたので、説明をお願いします。
兼松研究員	今後のICTの推進に向けての課題と問題点について、説明させていただきます。 課題としましては、授業の中で効果的に活用する方法を、さらに研究していくことがあります。どんなときにタブレットを使えば、子どもた

	ちにわかりやすく、興味関心を高める授業ができるのか、各学校で研修をすすめております。また、市のＩＣＴ支援員からも様々な先進的な事例を各学校へ情報提供しています。 問題点としましては、タブレットのトラブル対応があります。タブレットが動かなくなった等の連絡を受けて、ＩＣＴ支援員が対応しています。ただ、この件に関しましては、学校がたくさんタブレットを活用しているからこそ、トラブルが出ると考えます。また、セキュリティを強化するための対応も多くあります。こちらについても、今後も便利に安全に活用できるように対応していきます。
大戸井委員	ありがとうございました。
藤井市長	ありがとうございました。ほかに、ございませんか。 ないようですので、ここで、お一人ずつ、ご意見・ご感想をいただきたいと思います。 まず、庄野職務代理者さんからお願いいたします。
庄野職務代理	教育委員の庄野です。 日本で初めてコロナの感染者が見つかったから、３年が経ちました。この間、学校教育においてもいろいろな影響や変化があったように思います。 私たち教育委員もコロナが広がる前までは、毎年１４の小中学校すべてに学校訪問に行かせてもらっていましたが、ここ３年は、学校訪問がなかったり、一部の学校だけ訪問したりしてきました。今年度は、私は１１月に御所小学校、土成小学校、伊沢小学校、土成中学校、吉野中学校を訪問させてもらいましたが、その時の感想を含めて意見を述べさせていただきます。 まず、ここ数年学校訪問に行くたびに教育機器が充実してきていることやコロナ対策が進んでいることに驚いていました。今回、特に印象的だったのは、４年生以上と中学校の学級に電子黒板機能付きプロジェクターが導入されていて、どの学級もそれをうまく活用していたことです。先ほどの説明にもありましたが、先生方による活用の工夫とともに、子どもたちもタブレットやソフトを利用して自分の考えをまとめたり、友達に説明したり、いろいろなことができるようになってきていました。加えて中学校においてのＩＣＴ機器の活用も目に見えて増えてきたように思います。先生方の研修が少しずつ実を結んできていると思いま

	した。 近年、「主体的・対話的な深い学び」の大切さが言われています。コロナ対策のために、一時期、班学習や話し合い活動が少なくなり心配していましたが、ICT機器を活用することによりうまく対応してきているように感じました。今後は先ほどの説明にもありましたが、不登校児童・生徒への対応も含めたハイブリット授業を活用したり家庭でのタブレットの活用をより工夫したり文科省のメクビットへの対応などを深めていってほしいと思います。 また、各学校とも学級における2人指導体制や支援が必要な子どもたちに対する手厚い指導が行われていることが目につきました。 コロナ対策についても、どの学校も色々な環境整備をして、感染が広がらないように努力しているのがよくわかりました。 松尾芭蕉が唱えていた「不易流行」という言葉は、教育の場でもしばしば用いられてきました。本質的なものを忘れない中にも新しい変化を取り入れていくことが大切であり、今、学校はGIGAスクール構想やコロナ対策が相まって新しいことを次々と取り入れていかなければいけない状態になっています。そのなかで教育を充実させていくためには、先生方の研修や先生方への支援が必要です。 市長さんや教育長さんの最初のあいさつの中にもありましたが、阿波市総合計画後期基本計画の重点テーマの一つに「子育て応援のまちづくり」がありますが、「子育てするなら阿波市」のキャッチフレーズのとおり、教育においても学校施設の計画的整備や教育機器のいち早い導入や学力向上指導員、英語講師やICT支援員の配置など総合的な教育環境の充実、食育や英語活動など特色ある教育活動の推進など、市がすばらしい後押しをしてくださっています。 一年一年が非常に大切に身も心も大きく成長する小中学校の時期に、マスクをつけたままの活動を強いられ、班になって給食を食べたり、話し合いをしたりすることができなかったり、遠足や修学旅行を含め、いくつかの行事が制限されたり延期になったり、子どもたちが伸び伸びと活動しにくい日々が長い間続いてきました。 この春には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に下がり、その対策も変わってくるように言われています。こうした変化にも子どもたちや先生方が対応して、子どもたちができるだけ伸び伸びと活動ができるように、今後も市が支援をしていただけたらと思います。以上です。
--	---

藤井市長	ありがとうございました。続きまして、重清委員さん、お願いいたします。
重清委員	教育委員の重清です。よろしくお願いいたします。昨年の学校訪問を通しての感想を申し上げたいと思います。 令和元年度の学校訪問を最後に、コロナ感染拡大により、令和２年度は、９月、１０月に県教委の学校訪問時に密を避けるため、各委員が地元の小学校・中学校のみを訪問し、授業参観をさせていただきました。 令和３年度も県教委と一緒に授業参観の予定でありましたが、コロナ感染者増加のため、中止となりました。昨年は、徐々に、緩和されてきた時期１１月に可能な限り、県教委とともに小学校・中学校の学校訪問をし、授業参観のみでしたが、先生方の様子、児童・生徒の様子を知ることができました。 各小学校・中学校ともに、コロナ対策として国からの交付金や補助金で、先ほど佐藤次長より説明がありましたように、ほとんどの学校が各教室に空気清浄機と教室の空気を循環させるサーキュレーターを設置していました。コロナ感染初期から玄関・各教室の入口等に消毒液・非接触式温度検知器を、また、ある学校では各教室に手をかざすだけで検温できるものを備えている所、マスクの必要な児童に渡せるように予備のマスクを置いている所もあり、各学校が子どもたちの学びやすいよりよい環境を工夫されていました。 授業参観では、各教室をまわりながらコロナ感染対策で気になる点、換気の面で例えば、教室の向かいにトイレがある場合、窓を開ける場所、風向きによっては、よくない場合もあり、消毒液の設置場所や補充状況など、その都度、校長先生、教頭先生にお尋ねし、強化・検討していただくようにお伝えしました。 また、授業でＩＣＴ機器を使用されている場面では、ＩＣＴ研究員の先生が常に同行してくださっていましたので、いろいろとお尋ねすることができました。各学校でも、かなりＩＣＴに長けておられる先生もいらっしゃる、高度な使い方をされている先生もおられ、ＩＣＴに詳しい先生を中心に研修を積まれたり、先ほど兼松先生より説明がありましたように、ＩＣＴ研究員・支援員の先生にご指導いただきながら、効果的な授業の組み立てのための機器アプリの活用がどんどん進められています。 阿波市より小学校４年生から６年生の各教室に令和３年度の３学期より、電子黒板機能付プロジェクターが設置され、スクリーンにデジタ

	ル教科書の画面も大きく映し出され、大変見やすくわかりやすい授業が行なわれています。 今回の学校訪問では、小学校4年生から6年生は、ほとんど電子黒板機能付プロジェクター、デジタル教科書が、1年生から3年生も1人1台のタブレット端末が有効に使用され、子どもたちが授業に集中し、活気を感じました。また、感染に気をつけながら、グループ学習、話し合いも活発に行なわれていました。欠席者にも、1日2時間ほどリモートで授業を行なっているところもありました。 授業参観の中で、ある学校では1年生の漢字の書き順の徹底指導に1人1台のタブレット端末を使用し、画面に専用のペンで書き正解なら合図が、2年生ではタブレットを使って学習していると、どうしてもタブレットの操作に集中してしまい、つつい教師の説明を聞きのがしてしまいがちになるので、それを防ぐ機能として「先生に注目」の文字を児童用のタブレットの画面に教師用タブレットから送ることにより、児童用タブレットの使用を止めることができ、教師の説明や友だちの発表を集中して聞くという場面もありました。 3年生になると、観察や調べ学習に、1人1台のタブレット端末に写真撮影機能があり、キーボードを使って自分の考えをまとめたものに自分で撮った写真を添付して教室の後ろに掲示していました。 4年生の体育の授業を体育館で見せていただいたのですが、先ほど兼松先生の方からもお話がありましたように、とび箱の授業でホワイトボード黒板に先生がとび箱を飛ぶ過程の写真を順次掲示していたので児童一人一人が自分のとび箱を飛んでいる様子をタブレットで見ながらホワイトボードに示されたお手本と比較し、正しい飛び方の確認をすることができていたので、子どもたちも理解しやすい方法だと思いました。 また、教師用タブレット端末の画面には、クラス全員の解答や考え方が映っているので、一人の児童の考えを大型スクリーンに映し、クラス全員でその考えを共有し話し合うことができ、スクリーン用のペンで先生がアドバイスを書きこむこともでき、活気のある授業をされていました。 特別支援のクラスでは、1年生から6年生全員が各学年ごとに作文を発表したり、6年生は、修学旅行の感想に写真を添付し、パワーポイントを使ってわかりやすく発表していたのが印象的でした。 次に中学校ですが、前回の総合教育会議で中学校でも電子黒板機能付プロジェクターを取りつけていただければと、申し上げましたが早速、
--	--

	昨年の２学期より順次、電子黒機能付プロジェクターを全学年・全クラスに設置していただきましたことに、心より感謝申し上げます。 中学校によっては、ＩＣＴ機器を使っている場面を見ることが少なかったところもありましたので、今回は期待を持って参観させていただきました。全ての学校において設置して２か月程しかたっておりませんが、積極的に電子黒板機能付プロジェクターを使用し、美術室や理科教室でもＩＣＴ機器を使い、学習意欲の高まるわかりやすい楽しい授業が行なわれており驚きました。 校長先生にお聞きすると、１年生から３年生まですべての教室で電子黒板機能付プロジェクターを常に先生が使いこなせており、研修を積まれているということでした。 阿波市が教育に力を注いでくださっていることで、先生方の表情も豊かで子ども一人一人に目をむけ、よりわかりやすい授業を目指し、理解を深める場面、場面において、しっかりとＩＣＴ機器を活用し、話し合う時間、考える時間を十分とれるように効果的、効率的な授業を行なってくださいます。 このように、短期間でここまで子どもたちが授業に集中し、先生方が効果的にＩＣＴ機器を使われている様子を見ることができましたのも、阿波市が早くからＩＣＴ機器を各学校に設置し、ＩＣＴ研究員の先生を配置してくださり、機器のトラブル対応や、指導・支援に取り組んでくださったからです。 今後も、ＩＣＴ教育関係の研究員、支援員の先生方に研修の場やご支援をいただきながら、先生方が子どもたちや授業の構成、指導に時間を少しでも多くかけられるようになればと思います。 そして、来年度には、小学校１年生から３年生の教室にも電子黒板機能付プロジェクターの導入計画があるということで、今後に大変期待しております。 これからも、阿波市の子どもたちの教育に対するご支援をどうかよろしく願いいたします。私の方からは、以上でございます。
藤井市長	ありがとうございました。続いて、大戸井委員さん、お願いいたします。
大戸井委員	大戸井でございます。よろしく願いいたします。令和４年度の学校訪問を通して、私の感想を少し述べさせていただきます。 ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響のため、学校訪問の機会

	が少なく、本年度において、久しぶりに授業を拝見することができました。その際に感じましたことを少しお話ししたいと思います。 最初に驚いたのは、I C Tの活用が想像以上に進んでいたということです。数年前のことを思い出しますと、私の中では、I C T機器をもっと活用してほしいという思いばかりが優先していたように思い出されますが、今回参観させていただき、どうでしたでしょうか。 そこは、電子黒板付きプロジェクターを自在に操る先生方、また、個人個人に与えられたタブレットパソコンを自ら自由に扱う児童生徒達ばかりではありませんか。 わずか数年での驚くべき進歩に、本当にただただ驚くばかりでした。その背景にあるであろう、この数年の学校の取り組みや努力に感謝せずにはいられません。誠にありがとうございます。 もはや今の時代、生まれた時からスマートフォンやパソコンの環境が当たり前になり、そうした機器に触れる機会も格段に増えている現状で、今後ますますI C T機器の活用はあらゆる分野に必要不可欠となっていくことでしょう。 もちろん、それがすべてではない、I C Tというものに置き換えることのできないことも多々あるかと思いますので、そうした文化も残し学んでいかねばなりません。ハイブリッドな学び舎でありながらの、今後ますますの進化を期待いたします。 さて、新型コロナウイルス感染症を中心とする学校における感染症対策の現状を拝見しての感想ですが、感染対策の基本は年齢や業種を問わず、一に換気の徹底、二に手洗いと手指消毒、三にマスクの着用、四に適切な距離をとること、となるでしょう。世界においてはマスクの着用が低くなってきてはいますが、我が国においてはまだまだマスク着用の重要性は捨てきれぬものではありません。そのような中、感染症対策を取るには非常に困難な条件であるにも関わらず、学校関係者の皆様の努力や工夫に感心させられ、個人的にもぜひ取り入れたいと思うこともありました。 特に各教室に設置されたサーキュレーターは、換気を強制的に行う補助器具として有効であり、空気清浄機などと比較しても安価に導入が可能なものと思います。またメンテナンスにおいても比較して、簡便であると思います。非常に良い機器の設置だと思います。 検温やアルコール消毒、水道の使用に関しても不特定多数の者が使用する可能性があるものは自動化を図り、接触を避ける機器を導入し、リスクの軽減を図っている工夫には各学校の苦心が見て取れました。
--	--

	健康観察カードの導入などは、自分の健康は自分で守る意識を持ってもらうという意味以外にも、こうした対策が家族や友人を守るためでもあり、人の健康を守るためにもなるのだという思いやりの心を育むことにも繋がるのだと感じました。 感染症対策のみに終始せず、そこから思いやりの心を育むことが出来るという、学校ならではの教育という面もしっかりと行ってくださっていることに感謝いたします。 スーパーのレジに並びますと、足型があって、互いの距離をとるように配慮された感染症対策が見られますが、こうしたことを参考にされているのかどうかはわかりませんが、参観日の保護者に対する感染症対策にも一役買っている場面を見ることができました。 こと感染症対策に関しては、社会のあちこちに参考すべきこと、見習うべきこと等が転がっています。私たちはそうしたことも含めて、学ぶことの場合は、学校以外にもたくさんあることを知ったと思いますので、感染症自体は大変で、手間のかかるものですが、そこから得られるものをしっかりと吸収して互いに成長していきたいものです。 まとめとなりますが、ありとあらゆる学校に関する行事への参加、授業への出席等、ICTを活用して学ぶ機会の確保に努めていかなければなりません。 広くは、学校との関わりの確保といってもよろしいかとも思います。そうした可能性の広がりや、今回の学校訪問を通して感じる事が出来ました。 最後に、先生も児童生徒も、ますます明るく健康的であることを期待しまして、今回の学校訪問の感想といたします。ありがとうございました。
藤井市長	ありがとうございました。続きまして、森本委員さん、お願いいたします。
森本委員	教育委員の森本と申します。 先般、関係各位の御尽力によりまして、小学校2校と中学校1校を視察させていただきました。新米教育委員ですので、子どもをもつ親としての目線で見させていただくことになったかと思います。 1人1台のタブレット、電子黒板、エアコンの設置、コロナ対策として空気清浄機、それらの阿波市の充実した教育現場をじっくりと確認させていただきました。実際の授業では見る機会はありませんでしたが、ワードやエクセル、更にプログラミングのアプリなど、社会に出るにあ

	たり、実践的な技術が学べる事は素晴らしいことだと思います。 I C T教育は、昨今、コロナ禍でも授業が受けられます。子を持つ親としては有難い限りで、実際私の子ども達もリモート授業を受けさせていただきました。カリキュラムに遅れる事なく、先生や友達と画面越しに楽しそうに受けていました。タブレットでの宿題も毎日やっております。また、地球のあらゆる場所や人と繋がることも出来るし、子ども達の知的好奇心を掻き立て、時間や距離の壁を越える素晴らしいツールが、今の阿波市の教育現場にはあると思います。 文科省のデータによると、徳島の教職員の皆様のI C T活用指導力は全国2位であるとデータを確認させていただきました。実際に見学させていただいた学校の先生方の授業もスムーズで非常に分かり易いものでした。引き続き、子供達にI C Tを活用した質の高い学びの機会をいただけたらと思います。以上、私の感想でございます。
藤井市長	ありがとうございました。続きまして、細川委員さん、お願いいたします。
細川委員	昨年12月より教育委員をさせていただいております細川と申します。よろしくお願いいたします。 「阿波市教育活動の現状について～令和4年度の学校訪問等を通して～」ということでG I G Aスクールの取組と新型コロナウイルス感染予防対策について説明をいただきました。現在の学校での取組や様子がよく分かりました。ありがとうございます。他の委員さんと重なる場合もあるとは思いますが、自分なりの感想や意見を述べさせていただきます。 まず、G I G Aスクール構想に伴って、教職員用のパソコンがバージョンアップしたことを知りました。これによって校務処理のスピードアップ、連絡調整や事務処理の軽減が図られていることと思います。 児童生徒が持つタブレットについてですが、私が勤めていた頃は1クラス分の40台のノートパソコンが導入されていました。職員室の黒板にパソコン室や教室でのパソコンの使用時間を貼ってもらい使用が重ならないように調整していました。G I G Aスクールで一人一人にタブレットが配付されたことで各学年どの教科でもどの時間でも使えるようになり、便利になり学力向上につながっていると思います。昨年度には常設の電子黒板機能付きプロジェクターが導入されたことも知りました。勤めていた頃は、教材提示装置をプロジェクターにつないだり、

	教師のパソコンを大型テレビにつないだりして教科書やノートなどを提示していました。手間や時間がかかるとともに教卓の回りが狭くなって、子どもたちの移動にも支障がありました。新しく入ったタブレットや黒板の上に取り付けられたプロジェクターによりそれも解消されると思います。是非、小学校低学年にも同じプロジェクターを導入していただけたらと思います。 また、色々なアプリを使うことによって、様々な形態の授業や活用が考えられると思いました。特に児童が自分の考えを書き込む。その様子を担任は自分のパソコンの画面で確認できる。一斉指導の時は児童の考えを画面上に提示できる。それにより、話し合いをしてさらに学習が深まる。管理職の頃に「自ら学ぶ意欲を高める」というねらいで教職員と相談して、児童一人一人がホワイトボードを持ち、自分の考えを書いて、数名の児童の考えを黒板に貼って、話し合うという授業を進めました。それがタブレットにより簡単にでき、効率的に見せたり、考えさせたりする。さらに教師にヘルプを出せるというのにも驚きました。個々の児童に応じた指導が早くでき、教育効果が上がっていると思いました。 これからさらに、各教科において児童の興味・関心を高めたり、知識や理解を深めたりする手段としてＩＣＴ機器のいろいろな活用方法が考えられ、実践されていくのだらうと期待しています。 私には小学校へ通う孫がおりますが、学年閉鎖になった時や宿題で使う時にタブレットを学校から持って帰ってきます。森本委員さんと重なる部分もあると思いますが、少しお話ししたいと思います。 最初に学年閉鎖になった時はドリルのアプリで算数の計算や国語の漢字の勉強をしていました。すぐに正解かどうか分かるので、ゲーム感覚で楽しんで取り組んでいました。今も時々、宿題でドリルをしています。また、プログラミングのアプリでは動物や魚を動かしたり、キャラクターを作ったりしています。自分で作れるのがとても楽しいようです。 昨年１２月の学年閉鎖の時には、学校から保護者に課題などのメールが届き、教室と家庭をつないだオンライン授業も見ました。２日間、国語と算数の授業が各４５分間ありました。タブレットを立ち上げると担任の先生やクラスの友だちが映り、友だちの声も聞かれるなど教室で授業をしているような感じでした。最初は教室からの課題の提示が見にくいなど、とまどうこともありましたが、２日間予定通りの授業が進められ、「オンライン授業はこういうふうにするんだな」ということを見せていただきました。この方法も、先ほど説明がありましたけれども、い
--	--

藤井市長	ろいろな教科で利用できたり、学校間であったり、地域や各施設との交流も簡単にできるのではないかと思います。 児童生徒の学習だけでなく保護者へのアンケートやリモートでのPTA役員会など環境に配慮したり、新型コロナウイルス感染症予防対策での利用も参考になりました。 市教委においてGIGAスクールの取組についての成果や課題を検証していることと思いますけれども、各学校において成果のあった授業や行事・取組などをまとめたり、情報交換する機会を設けたりしていただいて、課題に対する指導や助言、方針を示すなどPDCAサイクルを利用して次年度へつなげていただけたらと思います。 もう1つの新型コロナウイルス感染症対策についてですが、新規感染者が増加傾向にあり感染者が高止まりの状態が続いています。コロナ対策でも水道の蛇口の自動化、各種消毒剤、換気の機器など市の方で様々な支援や対策をしていただいて、ありがたく思っています。 リモートによる朝会や始業式・終業式、各種表示や掲示物による児童への注意喚起、保護者による健康観察、またICT機器を使つての各種行事など各学校での工夫した取組を見せていただきました。勤務した学校で伝統行事がICT機器を使いながら形を変えながら、継続して実施されているところを見ると大変嬉しく思いました。 この3年間、未知の病気であり様々な情報に振り回されながら、今日まで来ています。特に学校現場では三密を避けるために、教育活動や学校行事が制限されるなど、大変な状況が続いていました。新型コロナウイルス感染症の収束はまだ見えてきませんが、コロナ後の新しい生活様式や学校教育を考えて、今後とも「児童生徒を中心にすえたわかる授業・楽しい学校づくり」のため、全ての人が子どもたちの教育に関わってくれたらと思っています。 タブレットが配付されて使うようになってまだ約1年だと思います。教育研究所やICT指導員の方の指導や助言、現場の管理職のリーダーシップ、先生方の日々の努力や研修によって、この短期間で様々な形でGIGAスクールが推進され、教育効果が上がっていることを見て、皆さまのご努力に頭が下がりました。 今後とも阿波市の子どもたちの学力向上のため様々な施策や支援をよろしくお願いいたします。以上です。ありがとうございました。 ありがとうございました。最後に、高田教育長さん、お願いいたします。
-------------	--

高田教育長	私の方から、少し述べさせていただきます。 まず、学校における感染症の対応につきましては、今日のプレゼンテーションをご覧いただきましたとおり、様々な感染症防止対策を取り入れ、学習内容や学習活動を工夫しながら、とにかく学びを止めない教育活動を継続していくこととしております。 3学期は入試もございます。冒頭にも少しお話させていただきましたように、コロナだけでなく、インフルエンザも心配しているところでございますので、これからも徹底してまいりたいと思っております。 次にGIGAスクール構想でございます。各委員さんから、ほぼ合格点をいただいたのではないかなと思います。ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響により、従来行っていた学校訪問も、かなり形を変え、簡略化して、ほぼ3年間できていない状況でございます。 その間、国におけるGIGAスクール構想は急速に進められまして、あっという間に、高速ネットワーク環境や、1人1台のタブレット端末が整備されました。 正直、様々な課題が山積する教育現場で、日常的にICTが活用できるようになるのか、また、我々教育委員会としても十分にサポートできる体制を整えることができるのだろうかという、不安もありました。しかし、先ほどご覧いただきましたとおり、今のところ、ほぼ計画通りに進められているのではないかと捉えております。 とはいうものの、すべての学校で、すべての教員がそうであるとは思ってはおりません。今後においては、これまでの取組や成果と課題を検証しながら、効果的な学習指導ができるICTの利活用をしっかりと進めてまいりたいと考えています。 そして、このGIGAスクール構想の実現に、まずまずのスタートが切れたのは、何においても、第一に、ICT支援員の存在が大きかったと思っております。 ICT支援員は、トラブル対応をはじめ、インストールや更新、操作の指導、授業のサポート、教職員研修の講師として、今でも毎日のように学校へ行って、1日中依頼に応えております。また、何よりも先生方との良好な関係も築きながら、学校の先生方からは、たいへん喜ばれております。 さて、GIGAスクール構想に関しては、「ICTを使うことが目的ではなく、手段である」とも言われます。使うことが目的ではなく、学習目標を達成するためにICTを使う。教育成果を出すために活用する
-------	--

藤井市長	ということです。 子どもたちが必要な資質や能力を身につけるために、ＩＣＴをどう活用するか。ＩＣＴを取り入れた授業をどのようにつくっていくか、という視点が大事だと考えています。 私も現場で教員をしていました時、冒頭、子どもたちに背を向けて黒板に問題を板書することから始まります。文章題を提示する時は、時間がかかるんです。しかし、ＩＣＴを使えば一瞬で問題提示ができます。また、グラフや図形は、本当に早く、美しく、正確に提示できます。画像、動画を活用することで、よりわかりやすい学習となります。 先ほど委員さんのお話にもございましたように、たくさんのドリルやプリント、問題、ワークシートがパソコン内にあります。何回もやり直しができます。学習したことが保存できて、さらにパソコンで簡単に整理し、簡単に呼び出すこともできます。 ですから、より効率的、効果的な、また、子どもたちがより興味・関心がもてる学びに繋がるのではないかと考えています。 しかし一方で、従来の学習で大切にしてきた「書いたり」「計算したり」する学びも大切だと思っています。 私は数学も教えていたので、特に立体図形などは、視覚的に見るだけではなくて、何度も繰り返し描き、感覚的に理解することも大切な学びと思っていますので、今後においては、紙媒体の教科書やノートを使うこととのバランスについても研究していく必要があると思います。 授業づくりは、教員にとっては専門であり、得意分野でもございます。各教科での研究会などで議論しながら、子どもたちにとって、「よくわかる授業」を目指してほしいと願っています。 従来型の学校訪問を３年間でできていません。教育行政施策の成果や効果は、学校での子どもたちの姿を見ることで判断することも必要だと思っています。来年度には、見て、触れて、感じるができる学校訪問ができることを願っております。 どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。 ありがとうございました。委員さんの方から、ご意見・ご提言をいただいたところでございます。私の方からも最後、まとめさせていただきたいと思います。 委員の皆さまから市内の小中学校で積極的にＩＣＴを活用した教育が実践されているお話を伺ったところですが、学ぶ力を伸ばしていくためには、教職員の皆さんの授業改善が重要であると思います。
-------------	--

森次長	様々な機能や効果を、皆さんと共有し、研究していただき、新しい学力向上の取組みが、さらに推進されることをご期待申し上げます。そして、新型コロナウイルス感染症対策につきまして、教職員の皆さんには、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、感染防止対策に細心の注意をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。 現在、「感染拡大 第八波」が到来しておりますが、「阿波市 医師会」をはじめとする、関係機関の皆様と、連携を図りながら、今後も引き続き、万全な医療やワクチン接種体制の確保に、努めて参ります。 今後とも学力向上の推進、教育環境の充実などの教育振興に、しっかりと取り組んで参りますので、皆様方におかれましては、尚一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。 それでは、議題2の「その他」に移りたいと思います。 何かありましたら、お願いいたします。 それでは、ご意見もないようですので、これで議事を、終了させていただきます。 長時間にわたり、委員のみなさまには、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。それでは、この後の進行は事務局にお願いしたいと思います。 皆様、たいへん、お疲れさまでした。 本日の会議につきましては、阿波市総合教育会議運営要綱第6条に、「会議の終了後、その議事録を作成し、これを公表するものとする。」とされております。委員のみなさまには議事録ができ次第、ご確認をしていただいたのち、阿波市ホームページへ掲載し、公表する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、これをもちまして、「令和4年度 阿波市総合教育会議」を終了いたします。たいへんありがとうございました。
------------	---